

市の台所事情

予算規模の推移（合併前と合併後）と特徴的な動き

財政課 財政係 ☎0824-73-1129

今月号から、「市の台所事情」と題して、庄原市の財政状況をシリーズでお知らせします。

①歳入の特徴

市の年収にあたる歳入の総額は、年々徐々に減少傾向にあり、H18をH12と比較すると、約52億円減少しています。その主なものは、国から一定の基準で交付される地方交付税が31.8億円、皆さんから納めていただいた市（町）税が2.4億円と減少しています。

これは、国が進めている「三位一体改革」や、未だ回復しない地域経済などの影響によるもので、これらによる歳入不足部分を、市の貯金にあたる基金を繰り入れてまかっています。

②歳出（性質別）の特徴

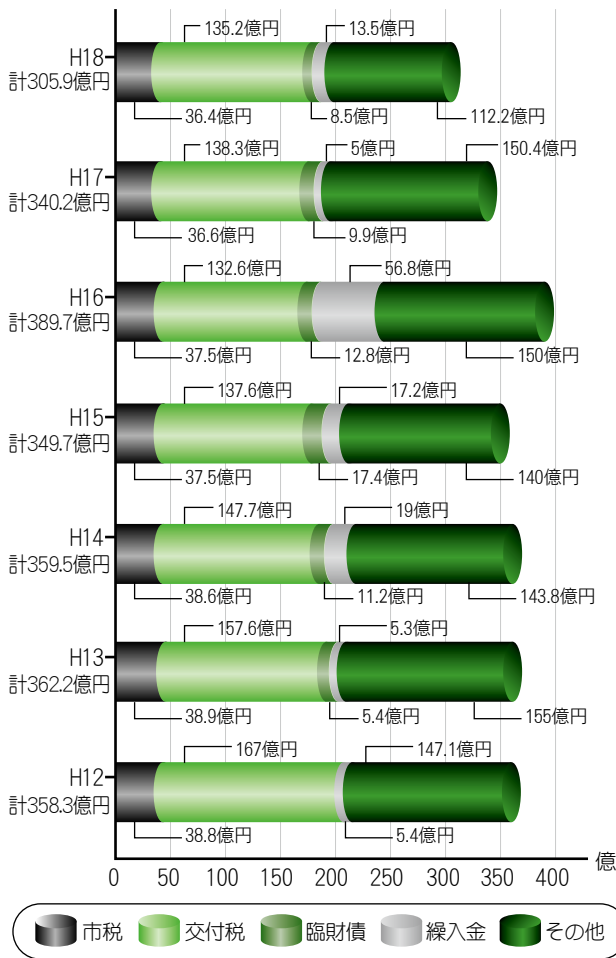
昨年3月31日、地域の生き残りをかけ、最大の行財政改革とも言える、1市6町の合

併を行いました。合併により、町長などの特別職や議会議員数などが減少し、また、新しく市の組織も作られ、職員数も減少しました。この結果として、人件費の削減（▲4.3億円）につながりました。

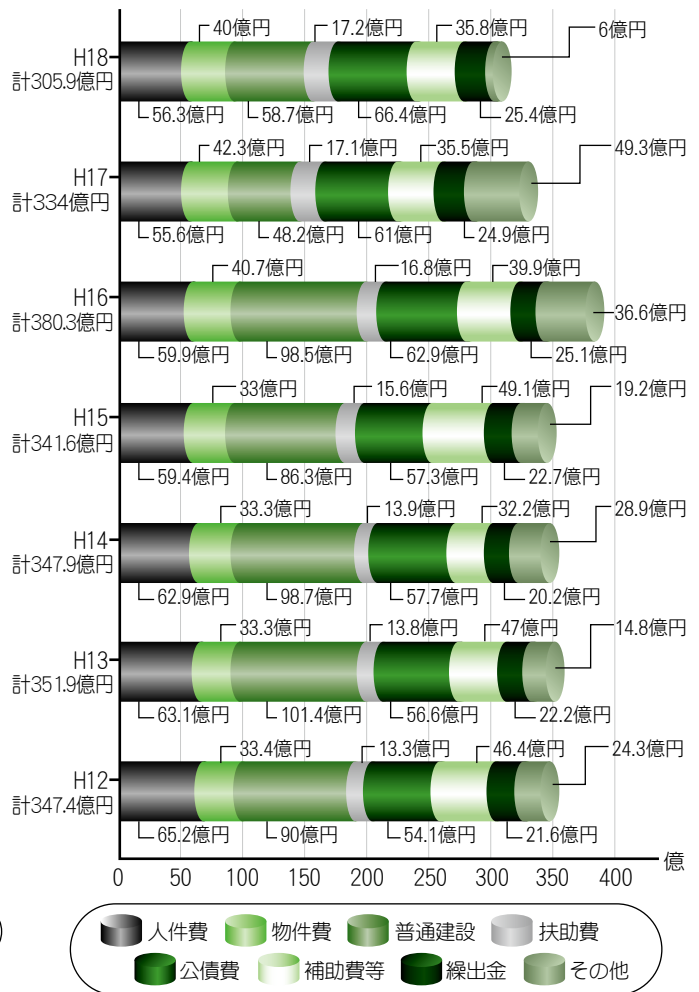
また、道路の整備を行うための普通建設事業費について、H18をH12と比較すると、31.3億円減少しています。これは、新市建設計画に沿って事業を実施していることにより、一方、合併前に各市町が行った建設事業のために借入れた借金の返済も行っており、借金の返済に充てる公債費は、年々増加傾向にあり、市の財政を圧迫しています。

来月号では、「歳入の推移と一般財源とは」と、「基金の取り崩しと基金の残高」について掲載を予定しています。

■歳入の推移



■歳出の推移



※文、グラフ中、H12～H16までは各年度決算数値、H17は平成17年度決算見込数値、H18は平成18年度当初予算数値を用いています。
 ※歳入、歳出のグラフは、一般会計に住宅資金特別会計や歯科診療所特別会計などを含んだ普通会計ベースで作成しています。
 ※金額は億円(四捨五入)で表示していますので、内訳の合計は必ずしも一致しません。